



その時、気づきは生まれた

—偶然と粘り強さに導かれて

2024/06/04 5・6限

「気づき発見講座」

大学での学び（1）

— 大学の仕組み

▶ 一般的な科目

講義を受ける → レポート／学科試験

▶ ゼミ

少人数で話し合い、発表
→ 卒業論文を書く。

大学での学び（2）

－ 説話文学のレポート

▶ 先行研究を複数本読む

→ 説話と物語の違いを示す研究

→ 自分が選んだ説話って

説話から物語が生まれる

過渡期のものでは！？（気づき）

A+

大学での学び（3）

— 卒業論文

➡ 教授「自分が100回以上読んでも、飽きない作品について研究しなさい。」

C

➡ タイトル「金城一紀『GO』における差別表象」

➡ 教授「読書感想文じゃん！」

大学での学び（４）

－ 卒業論文の失敗

気づきを得られなかった！！！！

- ⇒ 先行研究，関連研究を活用できず。
- ⇒ 好きすぎて対象を客観視できず。
繰り返しが不足。

大学での学び（5）

－ 卒業論文とレポートとを比較して

▶ 気づきの有無が大きく評価を左右

◎ **気づきをもたらしたもの（レポート）**

⇒ 先行研究と比較する。

⇒ 先行研究にあった情報を作品に援用する。

大学での学び（6）

－ 卒業論文とレポートとを比較して

▶ 気づきの有無が大きく評価を左右

× **気づきをもたらさなかったもの（卒業論文）**

⇒ 援用できる先行研究に出会えなかった。

（探索不足）

⇒ 作品（対象）を繰り返し読めなかった。

（粘り強さの不足）

教員としての学び（1）

－ 授業の様子から

問題意識 1

「現代文の成績を伸ばすことができない」

問題意識 2

「なぜ高校生は『読む』ことができないのか」

教員としての学び（2）

－ 授業の様子から

『わかったつもり』

（西林克彦著，光文社新書，2005）

「読めた」＝「わかった（つもり）」になっているだけ。

授業で出会う生徒で実際に試す。

⇒ 現代文の成績が伸びる生徒が多くなる。

教員としての学び（3）

－ よい結果を生むことができた理由

問題意識を**日常から**見つけ出していた。

→それにまつわる本を読みまくっていた。

実際の生徒に試してみた。

→**トライ&エラー**の繰り返し

日常の中での学び（1）

－ 映画「桐島、部活やめるってよ」

▶ 古典の授業シーン＝源氏物語「桐壺」冒頭

「唐土にも、かかることの起こりにこそ、世も乱れあしかりけれ」

⇒ 桐壺帝の当時の秩序を乱す振る舞い

（身分の低い一人の女性のみを寵愛する）について言及する場面

⇒ 桐島の行動も**学校の秩序を乱す振る舞いだ**と

暗示している。

日常の中での学び（2）

— 映画をより深く理解できた理由

細かい台詞にも気を配っていた。

（日頃の観察）

たまたま授業で扱った内容で，聞き取れた。

（偶然）

まとめ — 気づきを招くために

- とにかく粘り強く**先行研究を探す**！
- 対象について、**繰り返し観察**する！
- 日常から**問題意識**を持って（探して）おく！
- 得られた情報を**実験で試す**！